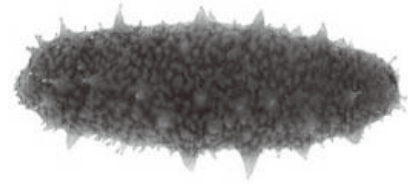


マナマコ

Apostichopus armata

地方名
あおなまこ、くろなまこ



生態

- ①寿命：10年以上
- ②成熟：6歳、約300g
- ③産卵期：5月～7月（水温13℃～16℃前後）
- ④分布：沖縄県を除く日本全国のほとんどの沿岸の、潮下帯から水深40m前後までの砂礫、転石、岩盤域に生息する。
- ⑤生態：ふ化した幼生は2週間～3週間浮遊生活し、稚ナマコに変態・着底する。2歳以上は1年で約60g成長する。浮遊幼生期間は植物プランクトンを餌とし、着底後は浮遊珪藻や付着珪藻、砂泥中の植物性有機物などを餌とする。夏の高水温期には、岩盤や転石などの隙間で、夏眠と称される休眠状態になる。マナマコは色によって区別されており、陸奥湾で漁獲されるものはほとんどがアオナマコまたはクロナマコである。様々な研究からアオナマコとクロナマコは同一であるが、アカナマコはやや異なると考えられている。ただし、別種とするかは研究者間でも意見が分かれる。別種とする場合、学名はアオナマコとクロナマコが *Apostichopus armata*、アカナマコが *Apostichopus japonicus* となる。

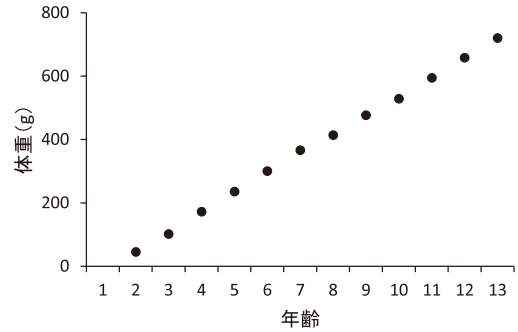


図 青森県におけるマナマコの成長(陸奥湾)

出典：遊佐(2020)R元年度青産技セ水研事業概要年報, 75-76.

主な漁業

本県の各沿岸で漁獲されるが、陸奥湾が県漁獲量の大半を占める。けた網、たもを使った底見、潜水等で漁獲され、冬季が漁期の中心となる。

漁獲の動向と水準

1975年以降400トン～900トンで推移していた漁獲量は、1988年の293トンの最低以降急増し、2007年は1,653トンの最高を記録した。2014年以降は減少傾向に転じ、2021年の漁獲量は608トンであった。

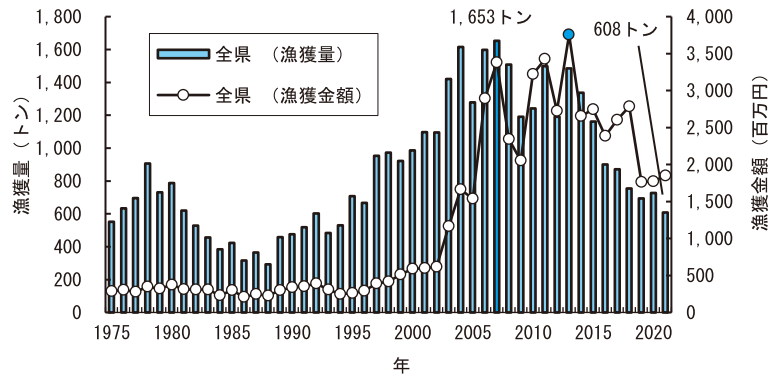


図 青森県におけるナマコの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

- 資源管理計画
(むつ市・横浜町漁協 1998年3月)
・操業区域の制限、稚ナマコの保護などを定めた。
- 青森県ナマコ資源管理指針
(2010年3月)
・小型個体の再放流や禁漁、休漁期間の設定などを定めた。

☆青森県漁業調整規則により、漁具の制限(なまこけた網：網の目合6cm以上)や5月1日～9月30日の採捕を禁止しており、これを遵守する必要がある。

